

2024. 4 5 6 7 8 9 10 11 12 2025. 1 2 3

春岱展

加藤芳樹展

久保貞次郎展

瀬戸染付

九谷赤絵展

収蔵絵画展

加藤昭男展

新収蔵品展

2024/4/20(土)–6/2(日)

特別展

休館日：5/14

せとものフェスタ 2024
春岱—稀代の名工—

春岱は尾張藩の御用を務める御窯屋の家系で、家督を継ぐと瀬戸赤津の御窯屋として数々の名品を生み出してきました。その作品は多様の釉薬・技法を使い、また器種も多岐にわたるなど幅広く、稀代の名工と称される所以となっています。本展は春岱が作り出した様々な作品を一堂に展示するとともに、御窯屋文書からも春岱の実態に迫るものです。春岱の御窯屋としての高い技術力や、当時新たに生産が始まった染付磁器に引けを取らない瀬戸の伝統的なやきものである陶器の神髄に触れていただけます。



《織部手鉢》江戸時代後期、瀬戸蔵ミュージアム

常設展

収蔵絵画展

瀬戸市美術館
Seto City Art Museum

〒489-0884 愛知県瀬戸市西茨町113-3
TEL 0561-84-1093 FAX 0561-85-0415
E-Mail art@city.seto.lg.jp
URL https://www.seto-cul.jp/

2024/6/8(土)–7/28(日)

企画展

休館日：6/11、7/9

磁祖加藤民吉没後 200 年事業
加藤芳樹展

加藤芳樹氏は、瀬戸染付の代々続く窯元「真玉園」に生まれ、家業に携わりながら、窯業化学や釉薬・顔料等に関する研究を重ね、釉下彩による作品制作に注力してきました。染付作品や釉下彩作品約 25 点を一堂に展示します。



《釉下彩波蝶図花瓶》2019、個人蔵

企画展

加藤昭男 彫刻展

1927 年、瀬戸市に生まれた加藤昭男氏は、東京藝術大学彫刻専攻科を修了、中原悌二郎賞や高村光太郎大賞展優秀賞、円空大賞を受賞しました。本展覧会では、加藤昭男のテラコッタやブロンズの彫刻を紹介します。

企画展

新収蔵品展

—「タカラモノ」を守り継ぐ—
寄贈を受けた新収蔵品を中心に展示します。

2024/8/3(土)–9/29(日)

特別展

休館日：8/13、9/10

生誕 130 年記念
北川民次と久保貞次郎
—真岡市コレクションを中心に—

瀬戸市を拠点に活躍した北川民次(1894～1989)の生誕 130 年を記念して開催する本展では、北川民次と親交があり、北川民次とともに児童美術教育の改革に努めるとともに、芸術家たちの支援者としても活躍した久保貞次郎に着目します。久保貞次郎が生前にコレクションした作品を所蔵する真岡市の北川民次作品を展示するとともに、当館に近年収蔵された北川民次作品を併せてご覧いただけます。



北川民次《タミ子像》1954 年、瀬戸市美術館蔵

2024/10/5(土)–11/24(日)

特別企画展

休館日：10/8、11/12

磁祖加藤民吉没後 200 年事業
瀬戸市制施行 95 周年記念
瀬戸染付
—奇跡そして技と美—

本展は、瀬戸における磁器生産の開始から、国内外に広く名声を得る昭和時代初期までの染付作品を展示し、瀬戸の磁器生産の歩みやその優れた技と美を紹介するものです。また、宮内庁庭園課及び皇居三の丸尚蔵館に収蔵されている瀬戸市で製作された盆器を展示するなど、皇居を彩った日本文化の神髄とも言える名品をご覧ください。そのほか地域に残される作品や海外からの里帰り品を含めた約 90 点を展示し、瀬戸染付の魅力を知っていただく展示です。



《染付花鳥図大植木鉢》19 世紀後期、宮内庁庭園課蔵

2024/11/30(土)
—2025/2/23(日)

特別展

休館日：12/10、12/28-2025/1/4、1/14、2/12

九谷赤絵の極致
宮本屋窯と飯田屋八郎右衛門の世界

九谷赤絵は、石川県九谷で作られた赤の上絵具と金彩で緻密に文様を描くのが特徴のやきものです。本展では明治頃に大成した宮本屋窯の作品を中心にをご紹介します。宮本屋窯の技術は渋草焼や湖東焼など国内諸窯にも伝わり、明治期に世界で名を馳せた「ジャパングタニ」の誕生にも繋がるなど窯業史の中でも重要な役割を果たしました。当館で九谷焼を中心に取り上げるのは本展が初めてであり、宮本屋窯の作品を一堂に鑑賞できるまたとない機会です。



《許由図鉢》19 世紀前～中期、石川県九谷焼美術館蔵

2025/2/24(月)
—2025/4/18(金)

第五回 瀬戸・藤四郎
トリエンナーレ展 準備のため休館